

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第 185 号

白井義胤翁
を訪ねて 7

孫の誕生と財界活動

小林 基男（柿生郷土史料館専門委員）

長男の結婚と渋沢栄一翁との出会い

義胤翁の長男泰胤さんは、義胤翁 30 歳の明治 7 年（1874 年）に誕生しました。泰胤さんがいつ妻帯したかは定かでないのですが、最初の妻サダ女は、明治 32 年（1899 年）に長女常子さんを生んで間もなく亡くなっています。泰胤さんは、それからしばらくして両親の勧めに従い、群馬の鉄道事業者で資産家の紅林七五郎氏の妹アサ女を娶ります。泰胤さんとアサ女の夫婦仲は極めて円満で、アサ女は明治 36 年（1903 年）に長男知胤さんを生むと、その後 1 年おきに次女登美さん、3 女登喜さん、4 女良子さん、次男定胤さん、3 男弘胤さん（1913 年—大正 2 年生まれ）と 6 人の子を産んでいます。義胤翁の 3 代目作戦の遂行に欠かせない大切な孫たちが隔年で生まれたのです。残念ながら子どもたちの父泰胤さんは、3 男弘胤さんの誕生後しばらくして病死します。大事な後継ぎの死ですから、義胤夫妻にとっても痛恨事だったのですが、賑やかな孫たちの声に救われ、短時日で日常を取り戻したようです。

孫たちに、素晴らしい縁談を準備するためには、骨董品売買で儲け続けるだけでは不十分です。そのため義胤翁は、様々な教育機関や就学準備中の学生に対する寄付を怠らなかつたのです。教育関係の寄付となると、事業計画がきちんと出来上がっている限り、決して断ることをしない義胤翁の姿勢を、大いに評価したのが日本資本主義の功労者渋沢栄一翁でした。渋沢翁は、最初の国立銀行である第一国立銀行（その後民営化されて第一銀行、合併して第一勧業銀行…現在のみずほ銀行）の設立や、東京商法会議所（現東京商工会議所）、東京証券取引所といった資本主義経済の心臓部に当たる企業や団体の設立や運営に携わり、「日本資本主義の父」と称された人物であることは、皆様ご存知の通りです。その渋沢翁は、他面福祉事業や医療事業にも目配りすると共に、現在の一橋大学や東京経済大学、高千穂大学などの設立を支援して実業教育の充実をはかり、さらに女子の高等教育の必要性を主張して、東京女学館の設立や日本女子大学の設立支援などにも携わっていたのです。そんな渋沢翁にとって、教育計画に筋が通っている限り、金は出すが口は出さない義胤翁の姿勢は、評価できるものだったのです。渋沢翁は、東京商法会議所の会合で義胤翁に声をかけ、日本の有力企業とりわけ現時点で財閥系に属さない独立系の国策企業への投資を勧めたのです。これは義胤翁にとって渡りに船でした。財界の大立者に声を掛けられ、国家の有力企業への余裕資金の提供を勧められたのです。明治 30 年代前半のことでした。

義胤翁は、自らの取引に関係する交通事業ではなく、企業活動にも日常生活にも関係する電力会社やガス会社の研究を始めました。その中で最も気を引かれたのが東京ガスでした。日本で初めて暗い夜道にガス灯が灯ったのは、明治 5 年（1872 年）の横浜馬車道です。2 年後東京府の金杉橋にガス製造工場が稼働、銀座通りにもガス灯が灯ります。さらに 2 年後の明治 9 年（1876 年）に東京府瓦斯局が開設されます。この国策会社は、9 年後の明治 18 年（1885 年）に民間への払い下げが決まり、渋沢翁らが 24 万円で買い取り、渋沢翁と浅野セメントの浅野総一郎翁らによって、東京瓦斯会社が資本金 27 万円で出発したのです。会社は明治 26 年（1893 年）7 月、商法の施行に伴い、社名を東京瓦斯株式会社に変更、ガス製造工場の増設に努めました。会社の事業拡大のためには、増資が欠かせず、株主割当増資が頻りに繰り返されたのです。その過程で割り当てを辞退した株主分の株券や端株の扱いが焦点となり、渋沢翁は義胤翁に、端株割り当て委員会のトップを依頼したのです。東京瓦斯株式会社の株主総会議長は、明治 31 年（1898 年）に早稲田大学の理工系への事業拡大計画に際し、渋沢翁に基金管理委員長を引き受けてもらった恩義から、大隈卿が引き受けていました。明治 38 年と 39 年の 2 か年、株主総会議長大隈重信卿の発声で、端株割り当て委員会委員の名簿が読み上げられたのです。名簿のトップが委員長です。皆が注目する中、白井義胤翁の名がまず読み上げられるという晴れがましい場が義胤翁に与えられたのです。 続 く



渋沢栄一

シリーズ

麻生区の地名 その 10

栗木の地名

菊地恒雄(日本地名研究所 研究員)

栗木はクリギとクリキと読み方が両方あり、特定できません。昭和 27 年の川崎市の呼称に関する文書ではクリギとなっています。栗木の地名由来に、古くから栗の木が多い土地からの村名と言われていますが、これは付会で険しい山々が崩れた地、クエと同義と考えます。その理由として、栗木の北側の山をトンビ山といい、その山が崩れてできた池をトンビ池と呼んでいました。トンビ(鳶)とは飛ぶという意味で、崩壊地に付く地名です。

栗木には現在 4 つの町会があります。栗木、栗木 1~3 丁目、栗木台 1~5 丁目、栗平 1~2 丁目です。明治 22 年にできた字は一号~四号があり、中谷戸川の北側が一号と三号で、南側が二号と四号と呼ばれていましたが、ほとんど使われることはありませんでした。

住居表示が施行されていない栗木には、片平川近くに常念寺があり、山間部からにじみ出た水が谷戸田を潤して常念寺近くの清水戸に集まり、片平川に流れ込んでいました。その南の片平境や町田市広袴方面にかけてを金井原とか金井原台と呼んでいます。丘陵上には和合院塚があり、地元では修験者の庵跡として法印様と呼んでいます。桐光学園の東の谷を京衛谷戸(きょうえたと)と呼んでいました。谷戸の入口に三基の石造物があり、都築郡栗木郷とあります。また、路傍には昭和 3 年の御大典記念の道標があり、この道は鶴川から栗木を経て、平尾・府中や柿生駅に通じていました。

栗木 1~3 丁目は土地の造成工事が完了し、以前の土地の形状を知ることはほとんどできませんが、片平川に注ぐ数々の谷戸がありました。

栗木 1 丁目に栗木御嶽神社がありますが、この社地を天王山といいました。ここには八雲神社がありました。大正 9 年に字一号にあった御嶽神社が天王山に遷ってきて合祀して御嶽神社としました。その後、造成工事のため、一時移転し完成後に元地より東によった現在地に戻ってきました。地元の人に伺うと、元の高さより 10 メートルも低くなったと言っていました。

栗木 2 丁目はマイコンシティ栗木地区として整備されましたが、その黒川境付近を高山といい、榛名山の祠があったといいます。この付近まで大森谷戸(だもりやと)が深く入り込んでいました。麻生連光寺線沿いに、中谷戸が深く入り込み、途中から松原谷戸が分かれて入り込んでいました。

栗木 3 丁目の桐光学園付近を栃窪谷戸といい、深い窪地の地形でした。一部、畑地として残っています。町田市境は栗木緑地として保存されています。

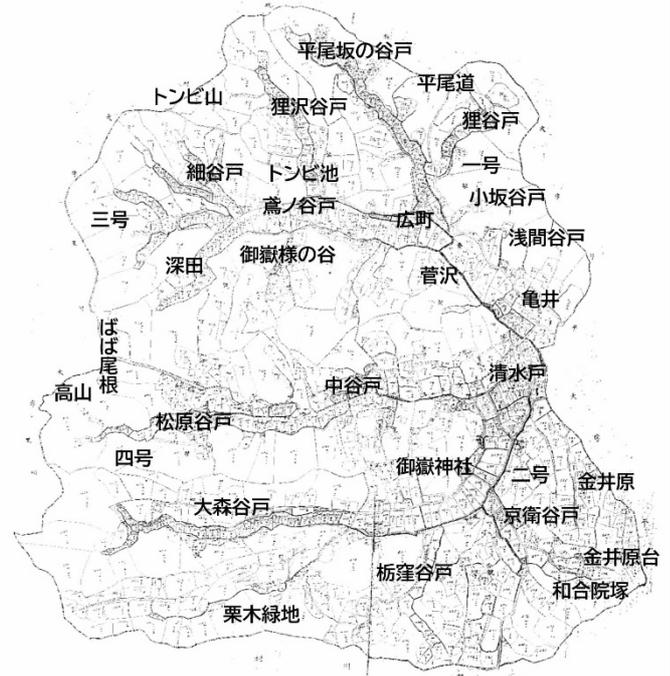
栗木台 1~5 丁目は小田急多摩線を挟んで、中谷戸川の北側の高台に位置していることから栗木台としました。1~2 丁目には小さな谷戸があり、菅沢(すげざー)や旧御嶽神社のあった御嶽様の谷があり、宮田や宮前という田がありました。4 丁目の南部は広町と呼ばれ、マチは田の区画のことで、栗木の中では一番広い耕地が広がっており、栗木の穀倉地帯と呼ばれていました。

3 丁目には鳶の谷戸が深く入り込み、途中から北に細谷戸、南に深田がありました。また、5 丁目には狸沢谷戸(まみぎやと)が北に延びています。

栗木台 2 丁目の黒川境付近をばば尾根と呼ばれ、黒川へ抜ける所が切通しになっていました。現在の切通しは数回の道路改修でかなり平らな道になりました。

栗平 1~2 丁目は区画整理による宅地造成によってできた町で、栗木の一部と片平の一部によって構成されているところから、旧町名の一字ずつをとって栗平と命名しました。栗平 2 丁目に平尾道が通っており、北から狸谷戸、小坂谷戸、浅間谷戸などの小さい谷戸がありました。平尾への新道付近に平尾坂の谷戸がありました。

栗平 1 丁目付近を小名亀井があり、片平にも通称地名に亀井があり、地続きの土地であったと思われる。



シリーズ
歴史の中の女性像 2

ナイチンゲールの世界 (2)

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

父の教育

上流階級の子供は、両親と共に季節ごとに住処を転々と移動する生活を続けるのですから、初等教育段階の子供を、学校に通わせることは、最初から出来ない相談でした。イギリスでは、男子の中等教育をつかさどった全寮制のパブリックスクールが有名ですが、季節毎に住処を移動する上流階級の子供を、親の保護を脱する年齢になった証として、親からの独立の第一歩として、全寮制のパブリックスクールに入学させていたのです。しかし、女子は違いました。前回指摘した通り、女子の教育は自宅で家庭教師の手によって行われたのです。

ナイチンゲール姉妹の教育も、当初の読み書きなどは家庭教師の手によって行われたのですが、本好きのフローレンスが、父の書斎の本を見たがったりすることに気をよくした父が、ある時期から娘達の教育を自ら担当することにしましたのです。フローレンスが 12 歳になる 1832 年のことでした。ナイチンゲール氏の教育は、フランス語、イタリア語、ドイツ語といった欧州大陸の国々の言葉、外国語の読み書きから始まりました。国語である英語の読み書きは、家庭教師に任せていた初等教育の段階で、十分できるようになっていたからです。ナイチンゲール氏による外国語教育と並んで、音楽と美術のレッスンも、専門家に教を受けていますから、パーセノーブ、フローレンス姉妹は、大変恵まれた環境の下で、十分な教育を受けることが出来たのです。



16 歳のフローレンス (左) と姉パーセノーブ

外国語教育が一段落すると、学究肌のナイチンゲール氏には欲が出ました。2 人の姉妹に、自分の持つ知識のありったけを注ぎ込んで、かつてのフランスのサロンの女王たちのように、居並ぶ文化人や学者たちと対等に語り合えるだけの教養を付与したいと考えたのです。こうしてナイチンゲール氏は、娘たちにギリシア語とラテン語 (= 古代イタリア語です) の授業を始めたのです。この二つの言語を修得すれば、古代ローマの政治家キケロの著作や、ギリシア哲学の大家プラトンの著作などを読むことが出来るのです。本の大好きなフローレンスは父の期待に答えて、熱心にギリシア語とラテン語のレッスンに取り組み、10 代後半には、父の図書室にある古代の歴史書や哲学者の著作を自由に読みこなせるまでになったのです。ただ、姉のパーセノーブは、妹のような勉強好きではありませんでした。彼女は次第に父の授業に出なくなり、母の下でお客の相手をして時間を過ごすようになったのです。

ナイチンゲール氏の期待は、必然的にフローレンスに向かいます。彼は次女を自分のような教養人にする期待を抱いて、彼女に古今の文学や哲学、さらにはギリシアやローマ、中世から近世にかけてのヨーロッパ史、そしてトルコの歴史まで教えようと努めたのです。しかし、ナイチンゲール氏の思いとは違って、フローレンスはリベラルアーツとは方向の異なる自然科学、とりわけ数学に強い関心を示したのです。彼女が 20 歳の時でした。突然彼女が数学を勉強したいと言いだしたのです。母と姉は、「女に数学なんていらぬ、社交界の付き合いに励んで、釣り合いのとれた素敵な男性を見つけるべきだ」と猛反対。父も、もっと歴史や地誌を勉強させたいと消極的でした。そんなフローレンスに助け舟を出してくれたのが、彼女に眼をかけてくれていた伯母 (父の姉) でした。伯母様は「フロー (彼女はそう呼ばれていました) があんなにやりたがっているのだから、何かの条件を付けてやらせてあげたら…」と、弟を説得してくれたのです。ナイチンゲール氏は、毎夜社交界の集まりに出席することを条件に、数学を学ぶことを許したのです。こうしてフローは、当時高名な数学の先生を家庭教師に迎えて、数学の勉強に励むことが出来たのです。何故フローは、数学を学ぼうと思いだしたのでしょうか？

続 く

令和 5 年度 柿生郷土史料館友の会 会員紹介 (8月19日現在、順不同・敬称略)

本年度の「友の会」法人会員の皆様ならびに個人会員数をご紹介します。当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。当館は地域の皆様のご支援とご協力により運営しております。

地 区	法 人 会 員		
上麻生	月読神社	(株)飛鳥典礼	誠和産業(株)
	(医)総生会麻生病院	プライマリー(株)	(株)北島工務店
	(株)ティエムコーポレーション	リック設計企画(有)	(有)柿生恒産
	(有)鴨志田産業 (まきば)	(株)スズユウ商事	(株)富士建材
	川崎信用金庫柿生支店	(株)フジ薬局	(有)山義産業
	セラサ川崎柿生支店	(学)川崎青葉幼稚園	(福)柿生アルナ園
	柿の実学園	とん鈴	喫茶ベル
	柿生保育園	カサブランカ	
小料理わかば			
下麻生	麻生不動院	サイトー農芸	中華料理福永
王禅寺	王禅寺		
王禅寺東	琴平神社	(株)朝日ホーム	(株)観財
	(株)エムケープ rint	(有)青戸建材	(株)タカミ
王禅寺西	(有)アクティブ	イートランド工房	
岡上	(有)ステップ・オン		
片平	長瀬土地家屋調査事務所	(株)Slow Farm	
白鳥	(有)ハウユウ		
栗木	(学)桐光学園		
はるひ野	(有)ユーコーポレーション		
万福寺	(有)白百合商事		
町田市	(学)和光大学		

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日：10月7・14・28日(毎土曜日) 11月5・12・19日(毎日曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

第 21 回特別展示 柿生隧道の建設

期間：8月12日(土)～12月16日(土)
会場：柿生郷土史料館特別展示室

かつて、真福寺から柿生中学校脇を
通って上麻生に抜ける道には、柿生隧道と
命名されたトンネルがありました。長さ
は60.1m、当時は川崎市で唯一でした。

完成は1951年(昭和26年)9月。1978
年(昭和53年)に取り壊され、現在のよ
うな切り通しになりました。

土木工事用の大型
機材のない時代に、
どのようにトンネル
を掘り、工事を進め
たのか。地元の先輩
たちが今に残してく
れた写真を見なが
ら、皆で想像してみ
ましょう。



第 13 回 史跡見学バスの旅 江戸・明治期の名園巡り

六義園・古河庭園・飛鳥山公園・旧渋沢庭園・名主の
滝公園などをめぐる約4年ぶりのバス旅行です。

日 時：2023年10月25日(水)

集 合：8時15分 新百合丘駅北口(21ビル前)

解 散：18時頃 新百合ヶ丘駅 ⇒ 柿生駅近く

募 集：45名

参加費：7,500円(昼食付き)

申 込：往復はがきに必要事項を記入し、史料館まで
(必要事項)参加者全員の郵便番号、住所、
氏名、年齢、連絡先電話番号

送付先：〒215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

柿生郷土史料館

(お近くの史料館支
援委員にお渡しいた
だいても結構です)

申込締切：10月2日(月)

